結果形態素 ***key*** と ***tolok*** の意味と用法

李清梅　上原聡　吉本啓
東北大学大学院国際文化研究科　{leeqm, uehara, kei}@insc.tohoku.ac.jp

1.　はじめに

韓国語には結果の意味を表わす一群の接続形態があり、そのうち ***key*** と ***tolok*** は(1)のように結果構文にも(2)と(3)のように使役構文にも用いられることが知られている。本研究では ***key*** と ***tolok*** という二つの形態を取り上げ、 (2)と(3)のような結果の意味を表わす文および ***key*** と ***tolok*** の交替について考察する。例文（2）は ***key*** 文と ***tolok*** 文の表わす意味は少し異なるが、交替が可能な文であり、例文(3)は交替が不自然な文である。

(1) cha-ka　cinaka-key / cinaka-tolok
車-NOM　通る-COMP
pikhye-ss-ta.
身をかわす-PST-DCL
‘車が通るように身をかわした。’

(2) kwudwu-lul　pandulpandulha-***key***/
革靴-ACC　ピカピカ-COMP
pandulpandulhayci-***tolok***　dakk-ass-ta.
ピカピカ-COMP　磨く-PST-DCL
‘革靴をピカピカに磨いた。’

(3) tali-ka　*celi-***key**/celi-***tolok***　kkwulh-ess-ta.
足-NOM　しびれる-COMP　跪く- PST-DCL
‘足がしびれるほど跪いた。’

本研究ではこの二つの形態を取り上げ、韓国語母語話者へのアンケート調査により、結果の意味用法における両者の交替、分布を解明する。

2.　先行研究

key、***tolok*** ともに結果の意味を表わすことができるが、先行する品詞に相違点が見られる。***key*** は動詞にも形容詞にも付くことができるが、***tolok*** は動詞にのみ付くことができる(Noh　2001)。

(4) tam-ul　noph-***key***/*noph-***tolok***　ssah-ass-ta.
壁-ACC　高い-COMP　積む-PST-DCL
‘壁を高く積み立てた。’

Wechsler&Noh(2001)によると、韓国語には叙述結果構文(predicative resultatives)と節結果構文(clausal resultatives)二つの結果構文があり、節結果構文において形態素 ***tolok*** は ***key*** と交替可能であると指摘した。

Suh(1990)は ***tolok*** には達成の意味があるのに対し、***key*** には固有の意味がなく、主に使役動詞 *ha*「する」/ *mantul*「作る」と使役構文で用いられると述べた。さらに、***key*** には主機能としての使役機能の外に、副次機能として修飾と達成の機能があり、両方の共通の機能―達成が働く時のみ ***tolok*** と ***key*** が交替可能であるとしている。

本研究ではアンケートに基づき、韓国語の結果形態素 ***tolok*** と ***key*** の意味とその用法について考察し、さらにその分布を解明する。

3.　分析

10 名の韓国語母語話者にアンケート調査を行った。各文に「自然」、「やや不自然」、「間違い」という三つの選択肢をあげ、丸をつけてもらった。三つの選択肢について「自然」は 2 点、「やや不自然」は 1 点、「間違い」は 0 点と割り当てた。

3.1　***key*** と ***tolok*** の交替

まず ***key*** と ***tolok*** の自由交替を見ていく。例文(5)は交替可能な文である。***key*** と ***tolok*** のスコアはそれぞれ 18 と 17 である。

(5) Chelswu-nun　cip-i　ttenaka-***key*** /
Chelswu-TOP　家-NOM　流れる-COMP
ttenaka-***tolok***　wul-ess-ta.
流れる-COMP　泣く- PST-DCL
'Chelswu は家が流れていくほど泣いた。'

例文(6)-(9)は交替不可能な文で、例文(6)-(8)は ***tolok*** のほうが使用されるのに対し、例文(9)はその逆である。前者の ***key*** と ***tolok*** のスコアはそれぞれ ***tolok(20)>key(10)***、***tolok(18)>key(12)***、***tolok(18)>key(5)*** で、後者は ***key(17)>tolok(6)*** である。

(6) sonpal-i　talh-***key***/talh-***tolok***　ilhay-ss-ta.
手足-NOM　擦る-COMP　働く-PST-DCL
'手足が擦り減るほど働いた。'
(7) maykcwu-lul　chwiha-***key***/chwiha-***tolok***
ビル-ACC　酔う-COMP
masye-ss-ta.
飲む-PST-DCL
'酔うほどビルを飲んだ。'
(8) nwun-i　pwus-***key***/pwus-***tolok***　wul-ess-ta.
目-NOM　腫れる-COMP　泣く-PST-DCL
'目が腫れるほど泣いた。'
(9) saywu-lul　ppalkah-***key***/ppalkah-***tolok***
海老-ACC　赤い-COMP
salm-ass-ta.
煮る-PST-DCL
'海老を赤く煮た。'

Wechsler と Noh (2001)の主張と裏腹に例文(8)は節結果構文(clausal resultatives)であるにもかかわらず ***tolok*** は ***key*** と交替不可能である。

さらに、例文 (7)と(9)は叙述結果構文(predicative resultatives)であるが、***key*** と ***tolok*** は正反対の結果を見せた。例文(7)は ***tolok*** 文が好まれるが、例文(9)は ***key*** が好まれる。

3.2 考察

先行研究で述べたように達成の意味を表す際、***key*** と ***tolok*** は交替可能である(Suh 1990)。しかし、***key*** と ***tolok*** の用法に当たって、アンケート調査の結果 ***key*** と ***tolok*** には意味的な違いが存在し、交替不可能な場合があることが分かった。アンケート調査の結果、明らかになったのは下記の二点である。

1. ***tolok***、***key*** ともに質的な動作(qualitative behavior)を表わすが、***tolok*** は時間的な継続による自然結果の意味が強いのに対して ***key*** は意図的な読みが強い。
2. 誇張表現において、もし時間的な継続性が強いと ***tolok*** は ***key*** より好まれるが、質的な動作を表す場合 ***key*** と ***tolok*** は意味的な差がほとんどない。

例文(8)の ***key*** のスコアは 5 点で、自然と答えた人は一人もいなかった。しかし例文(10)の ***key*** のスコアは 12 点で、例文(8)より自然さが高まった。

(10) sonswuken-i　cec-***key***/cec-***tolok***　wul-ess-ta.
ハンカチ-NOM　濡れる-COMP　泣く-PST-DCL
'ハンカチが濡れるまで泣いた。'

例文(8)と(10)は同じく「泣く」動詞の文であるが、例文(8)は「泣いて目が腫れた」という意味で、「目が腫れる」のは「泣く」動作、つまり泣き続くというイベントの時間的な継続による自然結果である。そこから ***tolok*** には時間的な継続が含まれていると推測でき、例文(8)では ***tolok*** の方が自然であるが、一方、例文(8)では ***key*** は韓国人母語話者にはほぼ受け入れなかったが、それは「目が腫れる」のは自然結果であり、日常生活の中でわざと目を腫らせるために泣く、即ち意図的であるとは考えにくいからであると思われる。よって例文(8)の ***tolok*** は例文(11)のように *halwucongil*(一日中)という時間副詞と共起できるが、*camkkan*(ちょっとの間)と共起できない。

(11) nwun-i　pwus-***tolok***
目-NOM　腫れる-COMP
halwucongil/*camkkan　wul-ess-ta.
一日中/ちょっとの間　泣く-PST-DCL

例文(10)(***tolok(16)>key(12)***)で ***key*** は例文(8)***(tolok(18)>key(5))***よりスコアが高かったが、それは恐らく「ハンカチがぬれる」という結果は自然結果であるか意図的な読みであるか曖昧であるからと思われる。そのほかにも例文(12)***(tolok(12)>key(2))***と例文(13)***(tolok(18)>key(1))***は ***tolok*** の方が自然な文である。

(12) = (3)

(13) ecey　nwun-i　pwus-***key***/pwus-***tolok***
昨日　目-NOM　腫れる-COMP
ca-ss-ta.
寝る-PST-DCL
'昨日目が腫れるほど寝た。'

動詞 *kkwulh* (ひざまずく)はある人が罰を受ける時などに取る行動で、「足がしびれる」ことは「跪く」動作の自然結果であるが、動作主の望ましくない結果である。よって、足がしびれるまで跪いたと言えるが、足をしびれさせるためにひざまずくとは考えにくい。すなわち例文(12)は時間的な継続を表す文であるため ***tolok*** を用いる。例文(13)の動詞 *ca*(寝る)は無意識動作であり、意図の意味は欠けているため、例文(13)の「目が腫れる」ことは「寝すぎ」の単なる自然結果、つまり「寝る」動作の時間的な継続による自然結果である。 したがって例文(14)と(15)のように、例文(13)の ***tolok*** は時間副詞 *yesessikanina*(6時間も)と共起できるが時間副詞 *yesessikanpakkey*(6時間しか)を入れると意味的に不自然な文になる。

(14) ecey　nwun-i　pwus-***tolok***
昨日　目-NOM　腫れる-COMP
yesessikanina　ca-ss-ta.
6時間も　寝る-PST-DCL
'昨日目が腫れるほど6時間も寝た。'

(15) *ecey　nwun-i　pwus-***tolok***
昨日　目-NOM　腫れる-COMP
yesessikanpakke　ca-ci unh-ass-ta.
6時間しか　寝る- NEG-PST-DCL
'昨日目が腫れるほど6時間しか寝てない。'

さらに、例文(16)***(tolok(19)>key(12))***は ***key*** も高いスコアを取ったが、例文(17)のように *inyen*(2年)という副詞を入れると ***tolok***、***key*** の意味の差が見えてくる。***tolok*** はある動作の時間的継続を表すので、(17)の ***tolok*** は靴に穴があくほど2年という長い時間履いてきたという意味になる。それに対し ***key*** は意図的な読みが取れるので、(16)の ***key*** はどのように履いたか、即ち穴をあかせるように履いたという意味がある。従って(17)のように時間副詞を入れると 2 年間靴に穴を空かせるため履いたと常識として考えにくい状態を述べているので不自然な文になる。

(16) sipal-ul　kwumeng-i
靴-ACC　穴-NOM
na-***key***/na-***tolok***　sin-ess-ta.
あく-COMP　履く-PST-DCL
'靴に穴があくほど履いた。'

(17) sipal-ul　kwumeng-i
靴-ACC　穴-NOM
na-***tolok***/*na-***key***　*inyen*　sin-ess-ta.
あく-COMP　2年　履く-PST-DCL

次は ***key*** が好まれる反対のケース例文(9)***(key(17)>tolok(6))***を見る。えびが赤くなるのは瞬時的なことで、時間的な継続性がないと考えられるため、時間をかけて煮る必要はなく、例文(9)は ***tolok*** が好まれないと思われる。したがって, *nuc-**tolok*** (遅くまで)という時間副詞は例文(18)と(19)のように動詞 *ca*「寝る」と共起できるが、動詞 *ilena* 「起きる」とは共起できない。

(18) a. na-nun　nuc-***tolok***　ca-ss-ta.
私-TOP　遅い-COMP　寝る- PST-DCL
'私は遅くまで寝た。'
b. na-nun　nuc-***key***　ca-ss-ta.
私-TOP　遅い-COMP　寝る- PST-DCL
'私は遅く寝た。'

(19) *a. na-nun　nuc-***tolok**　ilena-ss-ta.
私-TOP　遅い-COMP　起きる- PST-DCL
‘私は遅い時間に起きた。’
b. na-nun　nuc-***key**　ilena-ss-ta.
私-TOP　遅い-COMP　起きる- PST-DCL
‘私は遅く起きた。’

最後に上で述べた誇張表現の例文(5)と(6)を見る。例文(6)は時間的な継続が含まれているのに対し、例文(5)は「泣く」動詞の質的な動作を表し、時間的な継続を含まないので、ある人がしくしく一日泣いたとしたら例文(6)のような表現はできず、例文(20)は不自然な文になる。

(20) *Chelswu-nun　cip-i　ttenaka-***key** /
Chelswu-TOP　家-NOM　流れる-COMP
ttenaka-***tolok**　hunukkye wul-ess-ta.
流れる-COMP　しゃくり上げる- PST-DCL
‘Chelswu は家が流れるほどしゃくり上げた。’

一方、(21)のように khun soli(大声で)と共起するが、cakun soli(小さな声)で入れ替えると不自然な文になる。

(21) Chelswu-nun　cip-i　ttenaka-***key** /
Chelswu-TOP　家-NOM　流れる-COMP
ttenaka-***tolok**　khun　soli-lo/*cakun　soli-lo
流れる-COMP　大声で/小さな声で
wul-ess-ta.
泣く- PST-DCL
‘Chelswu は家が流れていくほど大声で泣いた。’

そこから(5)は質的な動作を表している誇張表現で、誇張表現が質的な動作を表す場合 ***key*** と ***tolok*** は意味的な差が消えると推定できる。

4. おわりに

Wechsler＆Noh(2001)は、韓国語には叙述結果構文と節結果構文という二つの結果構文があり、節結果構文において tolok は key と交替可能であると指摘しているが、本研究の結果、両者にはそれほどはっきりした境界線はなく、むしろ両形態は、tolok が時間的継続、key が使役とそれぞれの中心的な意味を持ちながら意味機能が重複していることが分かった。

伝統文法で ***tolok*** は動詞に付くと言われているが、必ずしもそうではない。例文(22)の ***key*** は 11 点、***tolok***. は 20 点である。さらに(23)のように助詞が i(が) o(を) ey(に)とも可能な場合がある。

(22) pay-ka　aphu-***key*** /aphu-***tolok***
お腹-NOM　sore-COMP
wus-ess-ta.
augh- PST-DCL
‘お腹が痛くなるまで笑った。’
(23) sul-**i** / **ul** / **ey**
お酒-NOM/ACC/DET
chwiha-***key***/chwiha-***tolok***　masye-ss-ta.
酔う-COMP　飲む- PST-DCL

今後は(12)のような現象について統語的な面から ***key*** と ***tolok*** の相違点を研究していきたい。

謝辞

本研究は、東北大学 21 世紀 COE プログラム（人文科学）「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」の補助を受けて行われています。

参考文献

Suh, Jung Soo. 1990. Kwuke Mwunpep-uy Yeonkwu Ⅱ [A Study of Korean Grammar II], Seoul: Hankwuk Publishing Co.

Wechsler, Stephen and Bokyung Noh. 2001. “On Resultative Predicates and Clauses: Parallels between Korean and English,” Language Sciences 23, 391-42